

燃料油価格変動の運賃転嫁状況アンケート調査結果について
(2023年度)日本内航海運組合総連合会
安定・効率輸送推進委員会

I. アンケート実施概要

アンケート実施期間 2024年1月22日～2024年3月13日

(前回調査) 2022年11月30日～2023年2月17日

対象事業者数：169事業者 (内航総連合会実施の輸送実績調査対象事業者 (元請けボイラー))

回答事業者数：72事業者 (前回調査 81事業者)

有効回答率：43% (前回調査 47%)

II. 調査結果の概要

1. 転嫁率について

2022年度の年間燃料消費量をベースに転嫁方法別にどの程度転嫁ができたかを貨物毎にたずねた結果、転嫁率の高い順から鉄鋼、高圧液化が99%、黒油・白油・油脂が97%、高温液体が96%、原料、木材・紙・パルプは95%、セメントが94%、砂・砂利・石材が91%、自動車が88%、耐腐食が85%、燃料が81%、雑貨・コンテナ、ケミカルが80%、穀物・肥料・飼料が79%、機械・プラントが51%となった。

転嫁方法別ではバンカーサーチャージ方式(以下、BS方式)は全体の48%、コスト保証方式が36%、運賃に含むが16%となった。また、全体の転嫁率結果は前回調査より5ポイント増加し90%となった。

No.	輸送貨物	消費量	転嫁計	転嫁割合	運賃に含む	バンカーサーチャージ	コスト保証
1	鉄鋼	122,750	121,733	99%	51%	45%	4%
2	原料	110,732	105,255	95%	62%	25%	13%
3	燃料	34,716	28,230	81%	43%	39%	18%
4	穀物・肥料・飼料	16,048	12,679	79%	78%	22%	0%
5	機械・プラント	552	283	51%	90%	0%	10%
6	木材・紙・パルプ	2,145	2,040	95%	100%	0%	0%
7	雑貨・コンテナ等	363,215	290,006	80%	0%	99%	1%
8	自動車	133,260	117,292	88%	0%	100%	0%
9	セメント	92,658	87,246	94%	17%	26%	57%
10	砂・砂利・石材	2,129	1,941	91%	100%	0%	0%
11	黒油・白油・油脂	321,025	311,356	97%	0%	8%	92%
12	ケミカル	86,644	69,192	80%	16%	37%	47%
13	高圧液化	53,089	52,554	99%	28%	19%	53%
14	高温液体	9,730	9,340	96%	14%	4%	82%
15	耐腐食	10,641	9,039	85%	8%	0%	92%
	計	1,359,334	1,218,186	90%	16%	48%	36%

★↑Exce上の計算では%が100%とならないところがあり、手計算で修正している箇所がある。

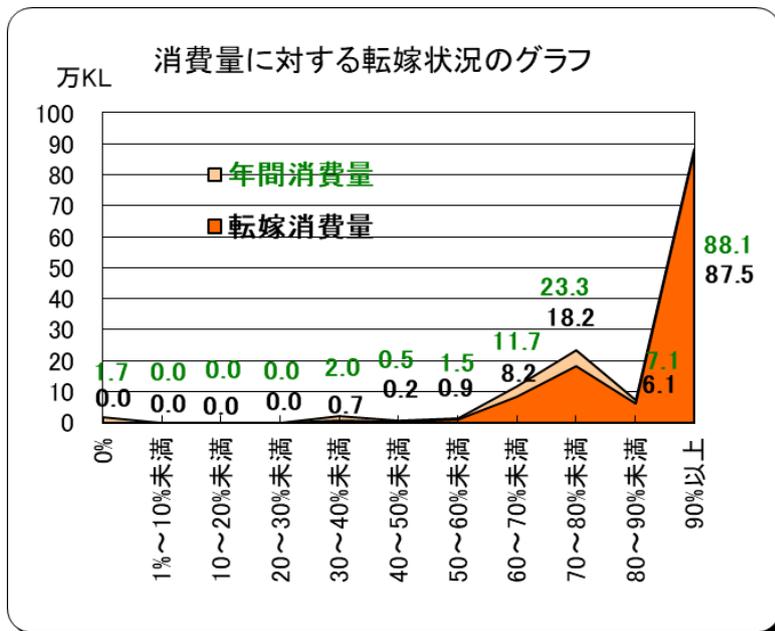
2. 輸送貨物別転嫁状況について

転嫁方法については、運賃を含むは前回 17%→16%、BS 方式は前回 61%→48%、コスト保証方式は前回 22%→36%となった。

3. 事業者別転嫁状況について

転嫁率が 0%の事業者は、前回 1 社→2 社となり 1 社増加している。また、1%～30%の低い転嫁率の事業者割合については該当事業社が 0%となり改善が見られている。

80%以上転嫁された事業者数は前回 53 社→45 社となり 8 社減少している。回答者の 2023 年度における年間消費量約 136 万 KL のうち、転嫁消費量は約 122 万 KL となり、転嫁率は前回調査より 5 ポイント増加の 90%となった。



(単位: KL、%)

転嫁割合	2023年度調査						2022年度調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
0%	16,761	1%	0	0%	2社	3%	40,000	3%	0	0%	1社	1%
1%~10%未満	0	0%	0	0%	0社	0%	9,500	1%	665	0%	1社	1%
10%~20%未満	0	0%	0	0%	0社	0%	1,771	0%	257	0%	2社	2%
20%~30%未満	0	0%	0	0%	0社	0%	20,360	1%	5,452	0%	1社	1%
30%~40%未満	20,068	1%	7,046	1%	2社	3%	50,971	3%	17,501	1%	3社	4%
40%~50%未満	5,347	0%	2,216	0%	2社	3%	16,330	1%	8,052	1%	2社	2%
50%~60%未満	14,889	1%	8,752	1%	5社	7%	1,500	0%	800	0%	1社	1%
60%~70%未満	117,460	9%	81,718	7%	8社	11%	131,860	9%	89,910	7%	3社	4%
70%~80%未満	232,672	17%	182,151	15%	9社	12%	226,026	15%	178,581	14%	14社	17%
80%~90%未満	71,046	5%	61,128	5%	7社	10%	111,430	7%	94,490	7%	10社	12%
90%以上	881,091	65%	875,175	72%	38社	52%	894,952	59%	885,936	69%	43社	53%
計	1,359,334	100%	1,218,186	100%	73社	100%	1,504,699	100%	1,281,644	100%	81社	100%
	転嫁率90%						転嫁率85%					

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない場合がある。

4. 満足度調査について

満足度については、現状の転嫁状況について「不満」・「やや不満」と回答した件数は前回 19%→17%、「満足」・「やや満足」と回答した件数は前回 65%→今回 62%となり、不満度並びに満足度については大きな変化は見られなかった。

現状	2023年度		2022年度	
	該当数	割合	該当数	割合
満足	99	50%	118	51%
やや満足	24	12%	33	14%
どちらでもない	40	20%	37	16%
やや不満	16	8%	23	10%
不満	18	9%	21	9%
合計	197	100%	232	100%

*小数点以下四捨五入のため、100%にならないことがある。

さらに輸送貨物毎に「やや満足」・「満足」を「満足」、「不満」・「やや不満」を「不満」として整理して見ると、「満足」と答えた割合は、セメント、高温液体、自動車、木材・紙・パルプ、耐腐食で 100%となっており、鉄鋼が 93%、高圧液化で 89%、黒油・白油・油脂が 88%、ケミカルで 81%と半数以上の品目で満足度は高い一方、燃料が 56%、砂・砂利・石材が 33%、穀物・肥料・飼料では 20%となり、機械・プラントは 0%となっている。

輸送貨物	満足計	不満計	計	満足割合	不満割合
ケミカル	22	5	27	81%	19%
原料	16	7	23	70%	30%
高圧液化	16	2	18	89%	11%
黒油・白油・油脂	15	2	17	88%	12%
鉄鋼	14	1	15	93%	7%
燃料	10	8	18	56%	44%
セメント	10	0	10	100%	0%
高温液体	6	0	6	100%	0%
雑貨・コンテナ等	5	2	7	71%	29%
自動車	3	0	3	100%	0%
木材・紙・パルプ	2	0	2	100%	0%
耐腐食	2	0	2	100%	0%
穀物・肥料・飼料	1	4	5	20%	80%
砂・砂利・石材	1	2	3	33%	67%
機械・プラント	0	1	1	0%	100%

5. 今後の転嫁の見通しについて

今と変わらないが前回 80%→87%となり 7%増加した。良くなりそう・少し良くなりそうは、前回 19%→12%となり 7%減少した。悪くなりそう・やや悪くなりそうは 1%→1%となっており、見通しは現状と大方変わらない結果となった。

No.	輸送貨物	良くなりそう	少し良くなりそう	今と変わらない	やや悪くなりそう	悪くなりそう
1	鉄鋼	0%	0%	100%	0%	0%
2	原料	0%	16%	84%	0%	0%
3	燃料	0%	10%	90%	0%	0%
4	穀物・肥料・飼料	0%	43%	57%	0%	0%
5	機械・プラント	0%	0%	100%	0%	0%
6	木材・紙・パルプ	0%	33%	33%	33%	0%
7	雑貨・コンテナ等	0%	14%	86%	0%	0%
8	自動車	0%	0%	100%	0%	0%
9	セメント	0%	0%	100%	0%	0%
10	砂・砂利・石材	0%	25%	75%	0%	0%
11	黒油・白油・油脂	10%	14%	71%	5%	0%
12	ケミカル	6%	3%	91%	0%	0%
13	高压液化	10%	5%	85%	0%	0%
14	高温液体	0%	0%	100%	0%	0%
15	耐腐食	0%	0%	100%	0%	0%
	計	3%	9%	87%	1%	0%

6. 交渉の有無について

転嫁についての交渉の有無については、出来ているが前回 77%→78%とほぼ変わらず、出来ていないが前回 11%→7%と減少した。一方で、現在交渉中では前回 12%→15%と 3 ポイント増加した。交渉が出来ていると回答した輸送貨物は、自動車、高温液体が 100%、鉄鋼が 95%、高压液化が 95%、雑貨・コンテナ等が 86%、セメントが 85%、黒油・白油・油脂では 76%、機械・プラント、ケミカル、耐腐食が 75%、原料が 72%、木材・紙・パルプが 67%、最も低いものは穀物・肥料・飼料で 29%となっている。

一方で、出来ていないと回答した輸送貨物は、黒油・白油・油脂の 19%、燃料、穀物・肥料・飼料が 14%の回答となっている。現在交渉中の回答は、穀物・肥料・飼料が 57%、砂・砂利・石材が 50%、木材・紙・パルプが 33%となっている。

No.	輸送貨物	出来ている	出来ていない	現在交渉中
1	鉄鋼	95%	0%	5%
2	原料	72%	12%	16%
3	燃料	62%	14%	24%
4	穀物・肥料・飼料	29%	14%	57%
5	機械・プラント	75%	0%	25%
6	木材・紙・パルプ	67%	0%	33%
7	雑貨・コンテナ等	86%	0%	14%
8	自動車	100%	0%	0%
9	セメント	85%	8%	8%
10	砂・砂利・石材	50%	0%	50%
11	黒油・白油・油脂	76%	19%	5%
12	ケミカル	75%	6%	19%
13	高压液化	95%	0%	5%
14	高温液体	100%	0%	0%
15	耐腐食	75%	0%	25%
	計	78%	7%	15%

回答者からのご意見

輸送貨物	交渉有無	転嫁方法	満足度	見通し	意見
鉄鋼	出来ている	バンカーサーチャージ	どちらでもない	今と変わらない	燃料単価価格上昇分についてはその都度、運賃に反映をしており、運賃単価を前年比較したところ平均して概ね10%程度の上昇となっている。消費量の対象期間は前年の2022年度(2022年4月～2023年3月)としている。燃料の消費量が多い航路ほど燃料の運賃転嫁率の影響が大きくなる(同一航路で比較するとその数値は顕在化するが様々な航路に多岐に渡り運航しているため品目別に数値化するのはかなり困難である)満足度や見通しについては、各営業担当者へのヒアリングの結果であり、主観的な意見もあったため会社としての統一的な見解を表現することは難しいと思われる。
ケミカル	出来ている	コスト保証	満足	今と変わらない	サーチャージ制度は燃料油費用の船費に占める割合を取り決め、内航燃料油四半期決定価格と基準燃料油価格との変動幅を四半期毎に計算し、運賃単価に変動%幅を追加請求する形としたので、燃料油価格上昇に合わせて追加運賃も増えるので転嫁率は良くなると考えている。
黒油・白油・油脂	出来ている	バンカーサーチャージ	どちらでもない	少し良くなりそう	今後も引き続き交渉に努めます。